


第1回  
モエレ沼公園

 教えて!!

# 学芸員のおしごと

学芸員とは、美術館や科学館、博物館などで、専門的な資格を持って資料の収集や研究に当たる職員のこと。  
しかし、業務はそれだけにとどまらず、実にさまざまです。  
このコーナーでは、札幌で活躍する学芸員さんに、自らの仕事について紹介してもらいます。

## モエレ沼公園とは

世界的彫刻家イサム・ノグチが亡くなる1か月前に設計した、彼の遺作ともいべき公園。昨年度、「環境アート賞」を受賞し、ますます注目を浴びている。



KAZUMI MIYAI

今月の学芸員 <sup>みやい かずみ</sup> 宮井 和美さん

平成15年、モエレ沼公園を管理する(財)札幌市公園緑化協会に学芸員として採用され、以後同公園のほとんどの業務に携わる。「大きな芸術作品の中で働けることが喜び」と本人は語る。

冬のイベント開催中に、雪のモニュメントが解けてきたときは焦りました。慌てて補修しましたが、こういうハプニングも日常茶飯事です。



## イベントなどを企画・運営

芸術作品でもある公園だけに、アートイベントや展示会を多く開催しています。イベントの内容を検討するため、芸術家の方たちと数時間議論することも。イベント前の数日間は徹夜で準備し、当日は司会を務めることもあります。

遊具は、ノグチのデザインが損なわれていないか点検します。たまにいたずらされて、汚れているのを見ると、とても悲しくなりますね。



## 2 視察や取材などに対応

国内外メディアからの取材に応じたり、視察に訪れた方を案内したりしています。案内のために、標高62mのモエレ山を1日に何度も登り下りして、へとへとなったことも。それでも、訪れた方が感動してくれると思えば苦になりません。



学校からの授業の依頼にも対応しています。視察には、多いときで年間1,500人が訪れ、安倍官房長官(当時)がいらしたこともあります。

## 3 作品・歴史を残し、広げる

関連する設計資料、書籍、学術論文などを集めています。将来は一つの書籍にすることが目標です。また、公園にある遊具を貸し出したり、販売するノグチデザインの照明などを彼のアトリエのある四国から仕入れたりもしています。